



が参加し、実際の通学時間帯に合わせ約40人の参加者が、2班に別れ通学路沿線を実際に歩き、危険な箇所がないか詳細な点検を行いました。

参加者からは、「実際に通学時間帯に歩道を歩いてみると、体の近くをスピードを出した車がたくさん通過するので怖い。」「危険な状況で子供たちが毎日通っていることを肌身で感じた。」などの生の感想が寄せられました。

また、幼稚園、小、中学生へは、事前アンケートが実施され、保護者の皆さんの意見も含め、通学路全般の危険箇所の把握を行ないました。

こうした結果、歩道内の段差や幅員の改善、歩道への車輛の乗り上げ防護柵の設置、歩



道の新設必要箇所や横断歩道の新設の他、はみ出し禁止や速度制限区間の見直し検討の

必要性など60件を超す指摘事項が出されました。

地域、利用者の視点での交通安全向上を

これらの指摘事項をまとめた点検結果を島根県へ提出し、今後、毎年1回の改善状況についての追跡調査が行なわれます。危険箇所の改善には、市、県、警察署などが連携して改善策を講じることに合わせ、地元の方々の意向調整を図ってもらいながら改善を進めてゆく内容のものもあります。

今後も道路利用者の視点を重視した安全点検の意識を地域に広げ、雲南市全体の交通安全の向上に結びつく取り組みをすすめていきます。

主な点検指摘項目

- ◆歩道内段差の解消
- ◆歩道脇の転落防護
- ◆横断帯への夜間照明の必要性
- ◆横断歩道の必要箇所
- ◆歩道新設の必要箇所
- ◆自転車通行帯の必要箇所
- ◆歩道内の支障物件（支柱・ゴミ箱）
- ◆はみ出し禁止及び速度制限の見直し
- ◆一時停止規制の検討・区画線の補修

など

吉田町発

わがまちの

たく
巧み

このコーナーでは、地域に根付いている伝統工芸や地域ならではの活動をされているみなさんを紹介していきます。

「わら工芸士 伝承の稲わら製品」

今月は、吉田町民谷地区にお住まいで、吉田町の特産品でもある稲わら製品の制作と伝統技術の伝承活動をしている影山茂利（かげやま しげとし）さんを紹介します。



影山さんとわら細工

稲わら製の民具は、古くから日常生活に使用され、冬仕事や夜なべ仕事として製作されてきました。

影山さんも子どもの頃から、稲わら細工に携わってこれられ、その手先の器用さから、現在でも特産品としての注連縄（しめなわ）や鶴・亀・宝船などの縁起物の制作を続けておられます。

また、九州地方や出雲市内の神社の大注連縄、出雲大社への縁起物の奉納のほか、おろち湯つたり館に展示してある8mの巨大オロチも影山さんが手がけたものです。

これらの巨大な作品の制作には、同町吉田地区でわら細工を制作する古居力男（ふるいきり）さんや古居貞義（ふるいきよ）さんらと協力して仕上げます。

影山さんは、稲わら製品の制作のほか、市内外の学校・福祉施設や稲わら工房（吉田町吉田2725番地）で実技指導を通して、昔ながらの伝統技術を伝えていきます。

独特の稲わら

影山さんの稲わら製品に使用



する稲わらは、地元で「からすもち」と呼ばれている赤もち米の青わらで、通常の稲より背丈が高く、張りがあります。

この材料となる青わらは、近くの田んぼで収穫されるものを使用し、制作には、力の強弱や微妙な手先の調整が必要となります。

元気の秘訣

影山さんは、大正8年3月生まれで現在87歳。その元気の秘訣は「1年を通じて携わるわら細工と、自分の気に入ったものができ上がる喜びにある」と話してくれました。

また、影山さんは、「稲わら節」や「俵積み節」など、わら細工に関するオリジナルの唄も

手がけられ、実技指導の際などに披露されています。

稲わら節（機節調）

作詞・作曲 影山茂利

一、米の成る木はー
粗末にやならぬー
春の卯月に 田んぼに入り
雨や嵐にー 耐えて育って
お米を作るー

サイシヨネー サイシヨネー

二、其の後の稲わらー

草履やわらじ草鞋ー
出雲大社に 鶴亀上がる
八俣大蛇ーやー
村の繁盛と宝の船もー
サイシヨネー サイシヨネー

※3番もあります

◆ ◆ ◆
元気な影山さんの手仕事による、昔ながらのあたたかみのある作品は、稲わら工房（☎0854-74-0223）で展示・販売しています。

